

令和5年度ネットリサーチ「食の安全の関心事」に関する調査結果報告書

■結果のポイント

- 食の安全に対して「安心している」(16.7%)、「やや安心している」(37.6%)を合わせた【安心している】は54.3%となっている。一方で、「少し不安を感じる」(12.1%)、「不安を感じる」(3.2%)を合わせた【不安を感じる】は15.3%となっている。
- 食の安全に対して【不安を感じる】と回答した方に、「不安とを感じるもの」について聞いたところ、「食品添加物」が68.6%で最も高く、「輸入食品」が35.9%と続く。
- 県が強化すべき取り組みについては、「ノロウイルスやアニサキスの食中毒対策」が18.1%で最も高く、「県内を流通する食品の検査」が16.4%と続く。

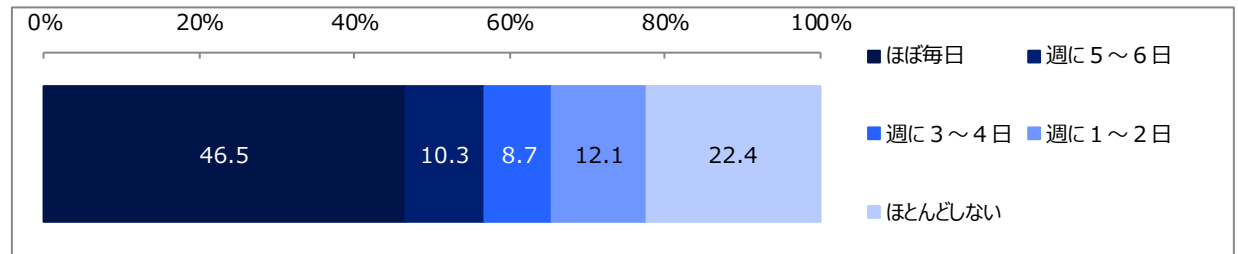
■調査結果の概要

1 炊事の頻度

◇ 「ほぼ毎日」が46.5%で最も高い。

Q2-1.あなたの炊事の頻度はどれくらいですか。次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
ほぼ毎日	46.5	465
週に5～6日	10.3	103
週に3～4日	8.7	87
週に1～2日	12.1	121
ほとんどしない	22.4	224

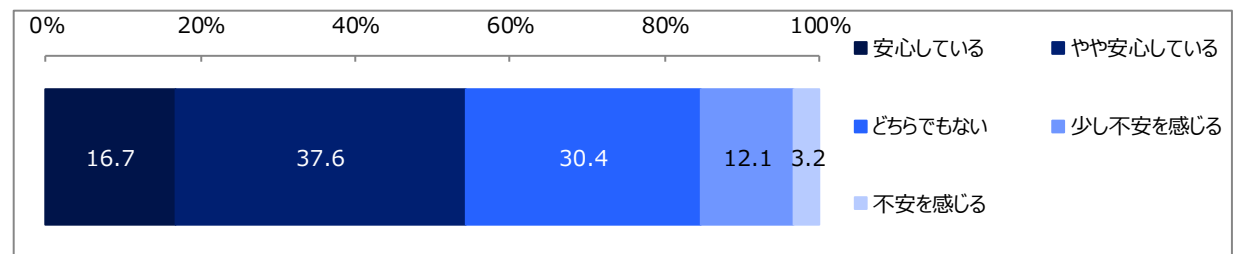


2 食の安全に対する意識

◇ 「安心している」(16.7%)、「やや安心している」(37.6%)を合わせた【安心している】は54.3%となっている。一方で、「少し不安を感じる」(12.1%)、「不安を感じる」(3.2%)を合わせた【不安を感じる】は15.3%となっている。

Q2-2.あなたは、食の安全について、どのように感じていますか。次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
安心している	16.7	167
やや安心している	37.6	376
どちらでもない	30.4	304
少し不安を感じる	12.1	121
不安を感じる	3.2	32



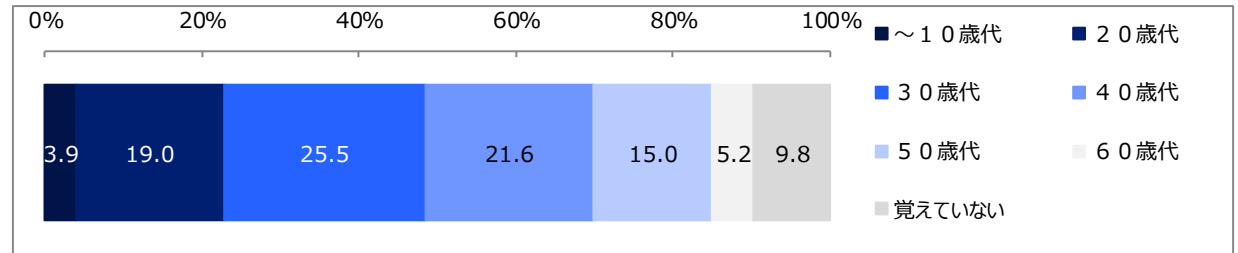
3 不安を感じた時期

◇ 「30歳代」が25.5%で最も高く、「40歳代」が21.6%と続く。

(Q2-2で「少し不安を感じる」「不安を感じる」と回答された方へ)

Q2-3.あなたはいつごろから不安を感じていましたか。次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

	%	n
全体	100.0	153
～10歳代	3.9	6
20歳代	19.0	29
30歳代	25.5	39
40歳代	21.6	33
50歳代	15.0	23
60歳代	5.2	8
覚えていない	9.8	15

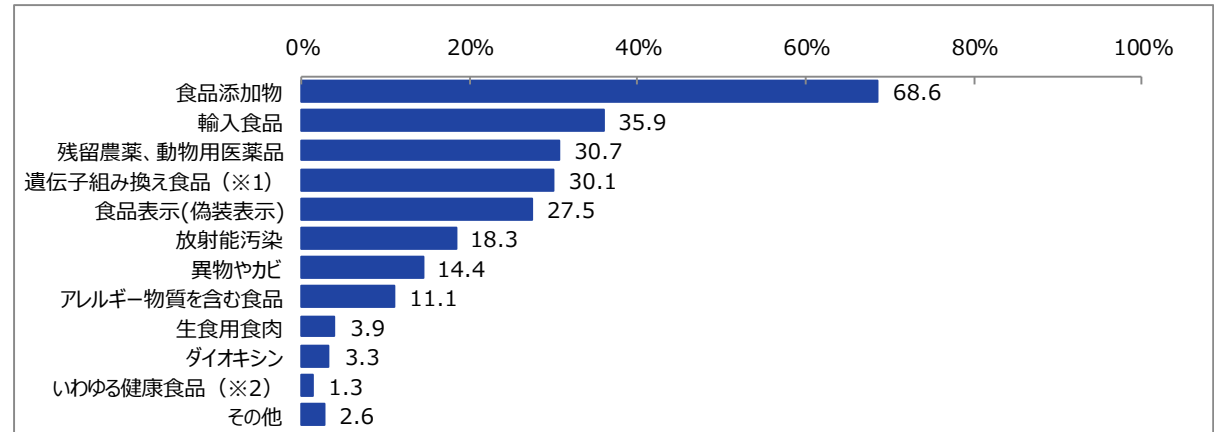


4 不安とを感じるもの

◇ 「食品添加物」が68.6%で最も高く、続いて「輸入食品」35.9%、「残留農薬、動物用医薬品」30.7%、「遺伝子組み換え食品」30.1%となっている。

Q2-4.あなたが不安とを感じるものは何ですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	153
食品添加物	68.6	105
輸入食品	35.9	55
残留農薬、動物用医薬品	30.7	47
遺伝子組み換え食品(※1)	30.1	46
食品表示(偽装表示)	27.5	42
放射能汚染	18.3	28
異物やカビ	14.4	22
アレルギー物質を含む食品	11.1	17
生食用食肉	3.9	6
ダイオキシン	3.3	5
いわゆる健康食品(※2)	1.3	2
その他	2.6	4



(※1) 別の生物の細胞から取り出した有用な性質を持つ遺伝子を、その性質を持たせたい植物等の細胞の遺伝子に組み込み、新しい性質をもたせる技術を用いて開発された作物及びこれを原料とする加工食品です。

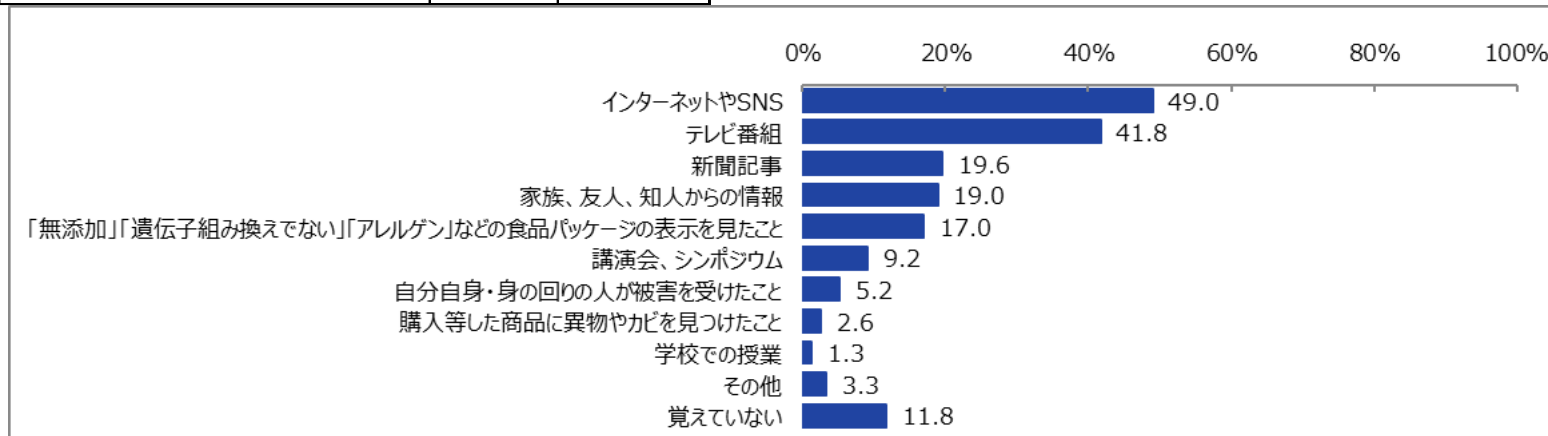
(※2) 「健康食品」と呼ばれるもののうち「特定保健用食品」「栄養機能食品」「機能性表示食品」を除くもののことです。

5 不安に思ったきっかけ

◇ 「インターネットや SNS」が 49.0%で最も高く、「テレビ番組」が 41.8%と続く。

Q2-5.前問で回答したものを不安に思ったきっかけはどのようなことでしたか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	153
インターネットやSNS	49.0	75
テレビ番組	41.8	64
新聞記事	19.6	30
家族、友人、知人からの情報	19.0	29
「無添加」「遺伝子組み換えでない」「アレルギー」などの食品パッケージの表示を見たこと	17.0	26
講演会、シンポジウム	9.2	14
自分自身・身の回りの人が被害を受けたこと	5.2	8
購入等した商品に異物やカビを見つけたこと	2.6	4
学校での授業	1.3	2
その他	3.3	5
覚えていない	11.8	18

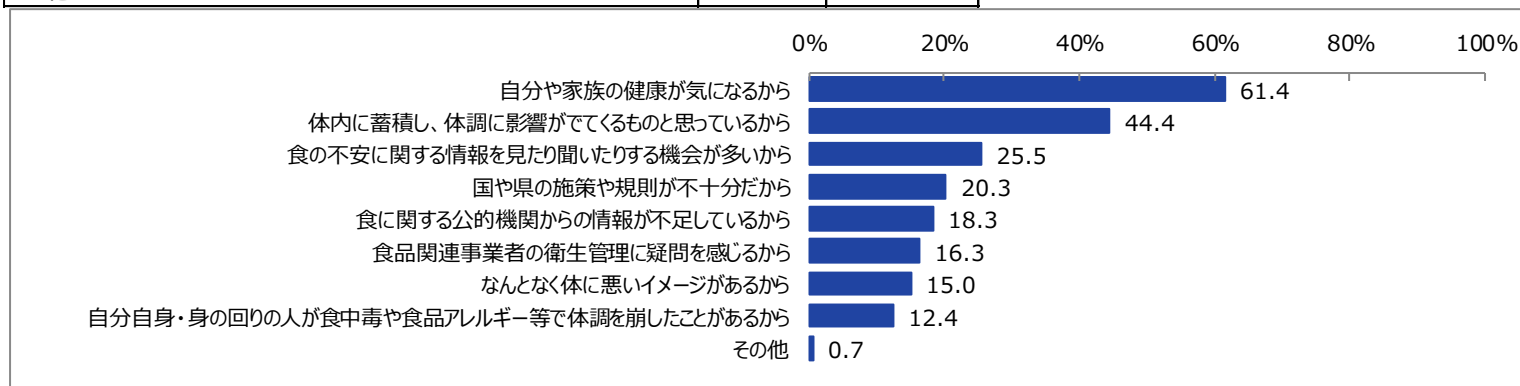


6 不安に思っている理由

◇ 「自分や家族の健康が気になるから」が61.4%で最も多く、「体内に蓄積し、体調に影響がでてくるものと思っているから」が44.4%と続く。

Q2-6.不安に思っている理由について、次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

	%	n
全体	100.0	153
自分や家族の健康が気になるから	61.4	94
体内に蓄積し、体調に影響がでてくるものと思っているから	44.4	68
食の不安に関する情報を見たり聞いたりする機会が多いから	25.5	39
国や県の施策や規則が不十分だから	20.3	31
食に関する公的機関からの情報が不足しているから	18.3	28
食品関連事業者の衛生管理に疑問を感じるから	16.3	25
なんとなく体に悪いイメージがあるから	15.0	23
自分自身・身の周りの人が食中毒や食品アレルギー等で体調を崩したことがあるから	12.4	19
その他	0.7	1

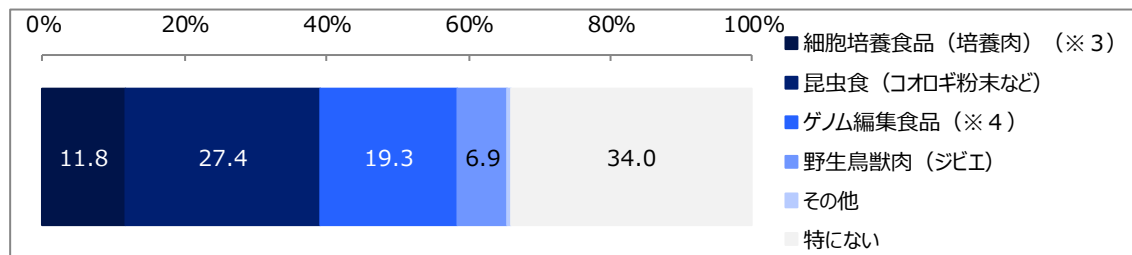


7 近年話題の食品に対する不安

◇ 「昆虫食（コオロギ粉末など）」が27.4%で最も高く、「ゲノム編集食品」が19.3%と続く。

Q2-7.近年話題となっている以下の食品について、あなたが不安と感じるものは何ですか。次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
細胞培養食品（培養肉）（※3）	11.8	118
昆虫食（コオロギ粉末など）	27.4	274
ゲノム編集食品（※4）	19.3	193
野生鳥獣肉（ジビエ）	6.9	69
その他	0.6	6
特になし	34.0	340



(※3) 従来の食肉の代わりとなる「代替肉」の一つで、動物の体外で組織培養することによって得られる肉のことです。

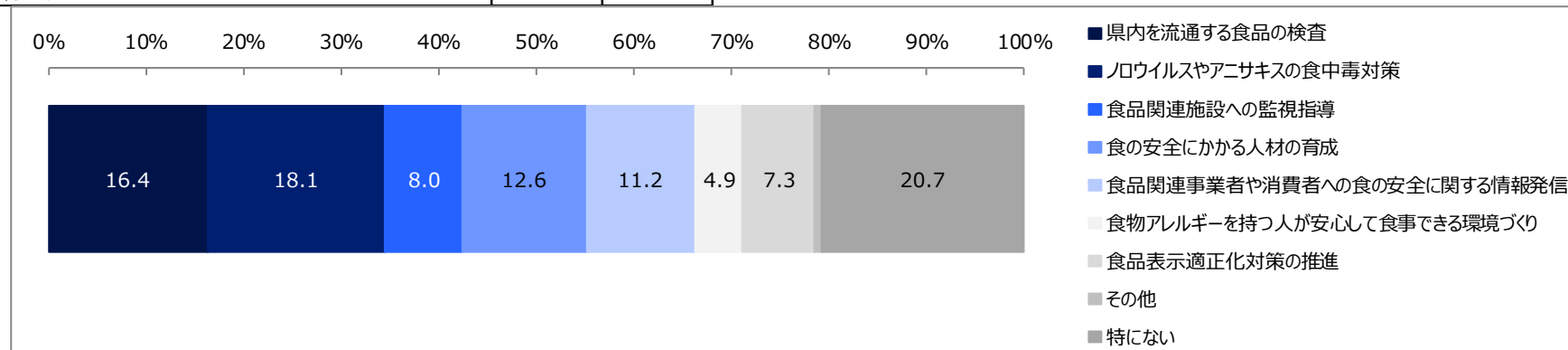
(※4) 一般に、DNA を切断する酵素を用いて、既存の遺伝子の欠失や塩基配列の置換など、ゲノムの特定の部位を意図的に改変することが可能な技術を利用して得られた食品のことです。

8 県が強化すべき取り組み

☆ 「ノロウイルスやアニサキスの食中毒対策」が18.1%と最も高く、「県内を流通する食品の検査」が16.4%と続く。

Q2-8.食の安全・安心をより確保するため、県がさらに強化すべき取り組みは何だと思いますか。次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
県内を流通する食品の検査	16.4	164
ノロウイルスやアニサキスの食中毒対策	18.1	181
食品関連施設への監視指導	8.0	80
食の安全にかかる人材の育成	12.6	126
食品関連事業者や消費者への食の安全に関する情報発信	11.2	112
食物アレルギーを持つ人が安心して食事できる環境づくり	4.9	49
食品表示適正化対策の推進	7.3	73
その他	0.8	8
特にない	20.7	207



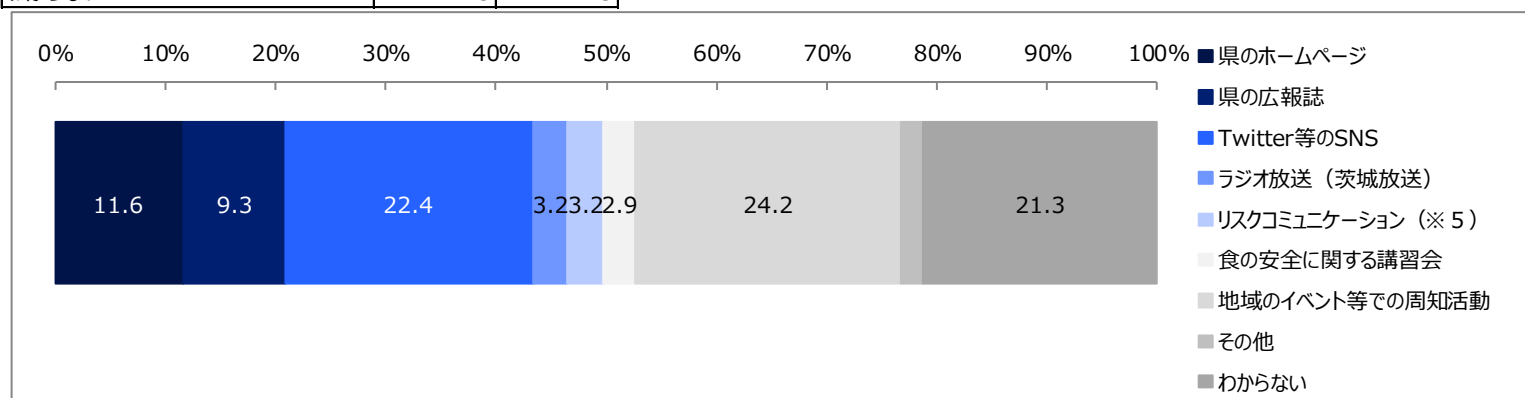
9 正しい知識の普及方法

◇ 「地域のイベント等での周知活動」が24.2%と最も高く、「Twitter等のSNS」が22.4%と続く。

Q2-9.現在、茨城県では食の安全に関する正しい知識の普及のために、様々な取り組みを行っています。最も効果的な方法は何かと思いますか。

次の中から最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

	%	n
全体	100.0	1000
県のホームページ	11.6	116
県の広報誌	9.3	93
Twitter等のSNS	22.4	224
ラジオ放送（茨城放送）	3.2	32
リスクコミュニケーション（※5）	3.2	32
食の安全に関する講習会	2.9	29
地域のイベント等での周知活動	24.2	242
その他	1.9	19
わからない	21.3	213



（※5）社会を取り巻くリスクに関する正確な情報を、行政、専門家、企業、住民で共有し、相互に意思疎通を図ること。茨城県ではテーマを決めて説明会や懇談会を開催しています。

■調査の目的

食の安全・安心を揺るがす事件等の発生が後を絶たない中、県民が抱く食の安全に対する意識及び関心事項に関する情報を収集し、より実効性のある施策を展開するために実施する。

■実施概要

・実施期間：令和5年6月16日～6月23日

・サンプル数：茨城県常住人口調査（令和5年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル
回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		114	245	94	359	188	1,000
性別	男性	59	125	50	185	99	518
	女性	55	120	44	174	89	482
年代別	18～29歳	18	41	16	68	33	176
	30歳代	17	42	16	62	30	167
	40歳代	23	55	21	83	41	223
	50歳代	28	57	21	79	42	227
	60歳代	28	50	20	67	42	207

県北：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、久慈郡

県央：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、東茨城郡、那珂郡

鹿行：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市

県南：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡

県西：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。